

◆研修会「公開講座」◆

## 地震における情報提供 —新潟県中越地震における病院図書室活動報告—

安達 栄子

### I. はじめに

2004年10月23日午後5時56分、新潟県中越地方を震源としたマグニチュード6.8、川口町で最大震度7の地震が発生した。気象庁は、この地震を「平成16年(2004年)新潟県中越地震」(英語: The Mid Niigata Prefecture Earthquake in 2004)と命名した。

地震の特徴として、本震と同程度の余震が長く数多く続いたことが挙げられる。また瞬間的な揺れの強さを表す最大加速度が、観測史上最高の2515.4ガルを記録した。この地震によって被災地は大きな被害に見舞われた(地震の概要は内閣府、防災情報ホームページ(以下HP)から参照できる[[http://www.bousai.go.jp/kinkyu/041023\\_jishinniigata/jishinniigata\\_55.pdf](http://www.bousai.go.jp/kinkyu/041023_jishinniigata/jishinniigata_55.pdf)])。

この地震において、長岡赤十字病院図書室(以下当室)が行った活動を報告する。それを通して災害時に病院図書室が果たすべき役割について考えてみたい。

### II. 当室の状況

長岡市では震度6に見舞われたことから、書架の倒壊などが懸念されたが幸いにも大きな被害は免れた。しかし書架最上段や連結せず背面合わせにしていた低い書架からは資料が落下し、手動式集密書架のレールにゆがみ

が生じた(図1)。当室の被害が最小限で済んだのは、建造物自体の耐震性や、固定式書架を連結する地震対策が奏効したためと考えられる。したがって地震後も通常通り開室することができた。

筆者は専任で図書室業務を行っているが、震災後しばらくは救護所受付などの業務に就くこととなった。また赤十字救護班に主事として参加し、避難所巡回を経験した。

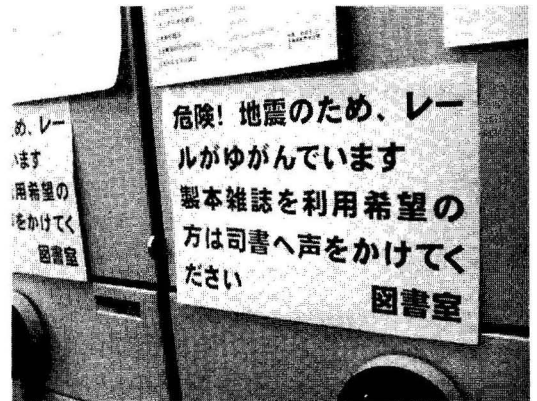


図1 集密書架の危険を知らせる貼り紙

### III. 緊急的な情報提供事例

本震から4日目の10月27日午後、長岡市内の土砂崩れ現場で、地震後行方不明となっていた母子3人の捜索が行われた。余震が続き二次災害が懸念される中、2歳の男の子が無事救出され当院に搬送された。

その日、図書室で慌ただしく文献を探す小児科医師がいた。声をかけると、小児のクラッシュシンドローム(挫滅症候群)の文献を探しているということだった。搬送されてきた

ADACHI Eiko

長岡赤十字病院 図書室

eikoalib@nagaoka.jrc.or.jp

男の子の命にかかわる緊急事態だということから、筆者が文献検索を引き受け、医師は患児のいるICUで文献を受け取るようになった。

雑誌文献を探す段になり、医中誌webを開いたが、地震の影響か接続トラブルが頻発した。苦慮しながら検索し、当室所蔵を探すものの、小児に関するものは見当たらなかった。そこで所蔵している病院図書室に複写を依頼することにしたが、多くの担当者は既に帰宅しており連絡が取れなかった。その後ようやく某病院図書室担当者と電話がつながり、事情を説明したところ緊急として対応して下さった。その結果いくつかの文献をファクシミリで送信していただくことができた。この経験から、緊急的な文献入手依頼はいつも突然訪れることを、改めて実感させられた。

#### IV. 情報提供活動の実際

当室は職員の通行が多い場所に位置している。そのため図書室出入り口のドアを掲示板として利用し、被災状況に関する情報提供を行った。きっかけは災害対策本部職員から、救護班が巡回診療を行うために、道路の被災状況を調べてほしいと依頼されたことである。また同じ頃、他の職員からも通勤や震災見舞いのため、同様の問い合わせが相次いだ。そこで道路・鉄道などの交通状況を、インターネットで調べて掲示した。その後日本赤十字社本社のHP「救護速報」や、被災地で懸念された病態などの医療情報も追加した。当時は停電等の理由からインターネットはおろか、テレビさえ見ることができない人も多くいた。そのため情報入手の手段としてラジオが重宝されていた。しかし視覚的な情報や、一般的な報道で伝えられない詳細な情報は入手しにくかった。幸い当室ではインターネットを利用することができたので、情報収集・提供に役立てることができた。

11月9日からは当室HPに「新潟県中越大震災ページ」を作成し、より広範囲への情報提供を目指した。これは新潟県立看護大学図書館が震災関連HPを作成・公開していたことが契機となった。同図書館の時機を得た取り組みに大変感銘を受け、その翌日、当室HP内に「中越地震 地震・災害関連情報」を掲載した（その後新潟県が災害全般を表す名称として「新潟県中越大震災」と呼称していることから、ページ名を変更）(表1)。当室HPは司書が作成や更新を直接行っているが、このことが迅速な情報提供に活かされたと考えている。

ページ内容は、当初は地震関連情報と所蔵関連文献情報を中心に掲載した。災害看護文献は先に述べた新潟県立看護大学図書館がリストを作成・公開していたため、当室では被災地で懸念されていた病態などの文献情報を掲載した。現在のHPの内容は表1の通りである。

利用者のレファレンス依頼は、当初の災害関連情報から時間経過とともに文献情報に移行している。これらの収集は所蔵資料とインターネットでの検索によるものである。そのため部分的な情報収集・提供に留まらざるを得ず、網羅的な活動にはほど遠いことが問題点である。

表1 図書室ホームページ  
「新潟県中越大震災」の掲載内容

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■インターネットでみる地震・災害・復興情報<br/>リンク集</li> <li>    図書館／医療／メディア／赤十字・行政<br/>    ／地震・気象・交通／防災／リンク</li> <li>■中越大震災関連図書・文献リスト</li> <li>    ・中越大震災関連の学会・研究会のお知らせ</li> <li>    ・中越大震災関連文献リスト</li> <li>    ・たこつぼ型心筋症の文献リスト</li> <li>    ・生活不活発病=廃用(性)症候群の文献リスト</li> <li>■更新記録</li> <li>■図書室利用および文献複写をご希望の方へ</li> </ul> |
|--|

## V. 県内図書館の情報提供活動

ここでは県内図書館の情報提供に関する活動をいくつか紹介したい。これらの日付・内容は主にインターネットから調べた。そのため不確実性を伴うことをご了解いただきたい。

### 1. 新潟県立看護大学図書館 (上越市)

[2004年11月1日～] 図書館内に「災害看護・地震関係資料コーナー」設置

[2004年11月8日～] 図書館HPに「新潟県中越大震災特設ページ」を掲載開始

内容：災害看護・地震看護に関する文献情報を掲載

URL: <http://lib.niigata-cn.ac.jp/shinsai.htm>

### 2. 新潟県立図書館 (新潟市)

[2004年10月27日～] 図書館HPに「新潟県図書館等情報ネットワーク」被害状況を掲載

[2004年12月14日～2005年3月6日] 図書館エントランスホールにて新潟県中越大震災資料コーナーを設置

[2004年12月24日ごろ～] 図書館HPに「新潟県中越大震災関係文献速報」を掲載

内容：図書・雑誌記事と市町村広報誌に分け、それぞれ1ヶ月分ごとにPDFファイルで提供

URL: [http://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/oshirase/chuetu\\_zisin/bunken-sokuho.htm](http://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/oshirase/chuetu_zisin/bunken-sokuho.htm)

### 3. 長岡市立図書館 (長岡市)

[2004年11月9日～] 通常開館(それまで臨時的な避難所となっていた)

[2004年11月20日ごろ～] 中越大震災に関係した資料を公開

内容：2005年7月現在でタイトル数約150

点。書籍・雑誌・新聞スクラップ・パンフレット・行政資料・視聴覚資料・文集・被災マップなど、網羅的な収集を目指している

### 4. 新潟大学附属図書館 (新潟市)

[2005年6月30日～] 図書館HPにて「新潟県中越大震災関係資料」を公開

内容：2005年6月現在でタイトル数約150点。様々な資料に加え、電子メールも保存しているところが目をひく

URL: <http://www.lib.niigata-u.ac.jp/News/chuetsu-eq/list.html>

## VI. 過去の災害における図書館の情報提供活動

過去の大規模災害における図書館の活動について調べた結果は以下の通りである。

### 1. 関東大震災 (1923年9月1日)

図書館名：東京市政調査会市政専門図書館

活動内容：関東大震災の被害状況や復興事業に関する資料収集。「関東大震災に関する文献目録」を現在まで継続して作成・公開

URL: <http://www.timr.or.jp/>

### 2. 宮城県沖地震 (1978年6月12日)

図書館名：東北大学附属図書館

活動内容：1979年4月、東北大学「東北大学の地震災害とその予防対策」を出版<sup>1)</sup>。巻末に東北大学附属図書館が収集・保存した「宮城県沖地震関係文献一覧」の掲載あり

### 3. 阪神・淡路大震災 (1995年1月17日)

図書館名：神戸大学附属図書館

活動内容：1995年10月30日～神戸大学附属図書館「震災文庫」公開<sup>2)</sup>。阪神・淡路大震災に関係する内容ならどのような資料でも収集(図書、雑誌、新聞、チラシ、ポスター、パンフレット、地図、写真、音声資料、映像、

HP等のデジタルデータ等) 電子図書館システムを導入し、震災資料の多くがHP上で閲覧可能

URL: <http://www.lib.kobe-u.ac.jp/eqb/index.html>

#### 4. 地下鉄サリン事件 (1995年3月20日)

図書館名: 聖路加国際病院医学図書館

活動内容: 文献検索; CD-ROM検索 (MEDLINE、医学中央雑誌)、DIALOG検索 (TOXLINE)。所蔵図書館へあらかじめ緊急の旨を電話連絡した上で、ファクシミリ送付依頼。到着した文献を司書が病院内のメールボックス・病棟・薬剤部・治療現場に届けた<sup>3)</sup>。

### Ⅶ. 災害に備えた図書室の活動

まず病院図書室は、地震災害時特有の医療・医学情報を把握しておく必要がある。近年各地で地震が頻発しており、事前の準備は急務と言える。しかし、災害医療は地震だけではない。例えばサリン事件のようなバイオテロ等、予測不能な状況に接することは十分考えられる。したがって事前に把握できることには限界があり、緊急的な文献入手が必要な場合があるだろう。今回文献入手に至ったのは、所蔵館と運良く連絡が取れたこと、また応対して下さった方のご厚意によるところが大きい。病院図書室が文献を必要とするときは、人の生死にかかわる事態であることが少なくない。このような場合、文献のファクシミリ送信などが、緊急避難的な措置として必要なのではないだろうか。そうした事態への対応やネットワークのあり方を、平時から協議しておくべきだと考える。

今回の地震では県内の公共・大学等の図書館ネットワークが、被災状況の把握、被災図書館からの利用者受け入れなどの役割を果たした。新潟県病院図書室研究会でも、状況把

握や被災図書室への復旧ボランティア等においてネットワークが有効に機能した。しかし高等学校図書館司書による報告によれば「学校図書館の被害については、結局、被災している私たちが自分たちで情報をまとめるしかなかった」と聞く<sup>4)</sup>。その上で今後は全国学校図書館協議会などのしかるべき組織が役割を果たしていくことが必要だと述べている<sup>4)</sup>。一方、館種によるそれぞれのネットワークは存在しても、相互の協力関係はないに等しい状況もある。今後は図書館界全体として、連携していけたら心強い。様々な図書館がひとつのネットワークを組むことができれば、平時にも災害時にも役に立つのではないだろうか。

2005年2月に開催された日本図書館研究会「災害と図書館：災害時における図書館の役割を考える」のシンポジウムで、神戸大学附属図書館の渡邊氏が震災文庫の10年間について講演された<sup>5)</sup>。講演で中越地震における図書館活動を紹介し、その際、当室の活動を「蓄積的な資料収集とはまた違った形の、機動的な情報提供」と述べている<sup>6)</sup>。病院は災害時に大きな役割を期待される機関のひとつである。そしてその中にある病院図書室には、その特徴を活かした情報収集・提供が求められる。

また今回の中越地震は、インターネットが一般に普及してから初めての大規模地震となった。パソコンや携帯電話を用いたHPや電子メール、ブログなどの手段が、情報の流通に大きな役割を果たした。当室でも情報収集・提供ともに、インターネットを有効活用した。しかし被災状況によってはインターネット等の情報手段が使えない事態も考えられる。そうした場合に病院図書室として役割を果たせるのか、またどう支援できるのか、という問題が残る。

## VIII. おわりに

病院図書室は医学・医療情報を扱っている専門図書館である。病院図書室から患者・住民への医療情報提供が始まりつつある現在、災害時においてもその専門性を活かすことができるものと思う。

まもなく中越地震から1年を迎える。当室としては今後もHPでの情報提供活動を継続し、さらに充実させていきたいと考えている。

最後になりましたが新潟県中越地震に際しては、皆様からあたたかいご支援をいただき、誌面を借りまして心より御礼申し上げます。

### 参考文献

- 1) 東北大学. 東北大学の地震災害とその予防対策, 仙台, 東北大学, 1979.
- 2) 稲葉洋子: 震災資料の保存と公開—神戸大学「震災文庫」を中心として—. 大学図書館研究 1999; 55: 54-64.
- 3) 河合富士美、及川はるみ: 地下鉄サリン事件. 医学図書館 1995; 42(2): 121-122.
- 4) 熊木寛子. 新潟県中越地震 被災地から. 日本図書館研究会第46回研究大会シンポジウム配布文書
- 5) 日本図書館研究会第46回研究大会シンポジウム 災害と図書館—災害時における図書館の役割を考える—. 図書館界 2005; 57(2): 62-89、157.
- 6) 渡邊隆弘: 震災記録を収集・保存し、将来に役立てる. 第46回研究大会シンポジウム 災害と図書館—災害時における図書館の役割を考える—. 図書館界 2005; 57(2): 73-77.